

村岡敏一議員



問 農地の生産基盤整備の今後は 答 整備は地域の声を丁寧に向い支援

資材や工事費が上昇
暗渠排水整備の促進策は
暗渠排水工事費支援の現状と
次期に継続して暗渠排水事業は
計画できるのか。

奥山町長

中山間事業では、令和3年度に制度が見直されたことにより、農業者個人のものであっても、農業生産の継続に必要不可欠な補修、改修等を含む簡易な基盤整備は継続して可能となったことから共同取組として暗渠の自己施工、請負施工に支援している。次期の第6期の事業内容に関して国からの具体的な内容は示されておらず、動向を注視しながら中山間和寒集落が円滑に検討出来るよう支援していく。

○再質問

国から示される内容が厳格となった場合の対応は。

奥山町長

制度に対して、町単独ではなく上川管内や北海道とが一つの塊となって国に要望していく。

第6次総合計画の
後期実施計画の内容は

今後の基盤整備や畑地化が進んだことによる大区画化整備への考えは。

奥山町長

国営・道営などの公共事業により農業基盤整備が推進できるよう、これまで農業者に対する事業制度に係る説明会など開催してきている。

畑地化推進事業では、水田面積2500ヘクタールの内、令和6年度の申請予定面積を含めて、1100ヘクタールで畑地

化になることから、申請した農地は畑地整備事業を選択し、必要な整備を行うことになる。

大区画化整備は、事業を検討する段階から土地所有者間との調整など、地元期成会の役割が極めて大きいことから今後も地域の声を丁寧に向いながら関係機関と連携して支援していく。

整備して良かったことはもちろん、苦労したこと等、メリツトやデメリットを含めて、生の農業者の声を聞く機会を作れないか、行政として土地改良区と相談して検討したいと考えている。



▲畑の水はけを良くするための暗渠排水工事